

【乳汁検査まとめ】

はじめに

今年も上半期が終了しました。そこで今年の1月～6月において弊社にて実施した乳汁検査の結果をお伝えしたいと思います。

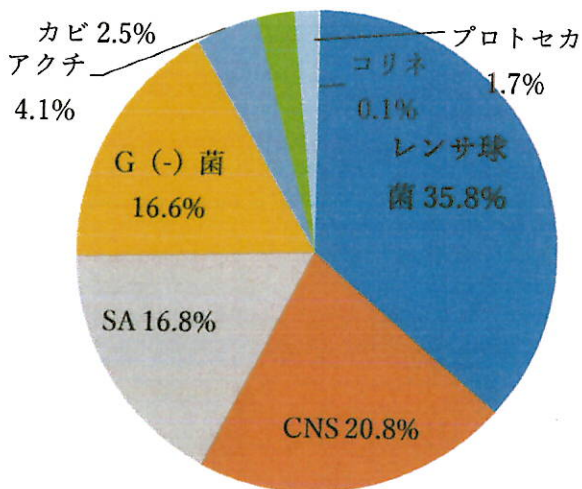
検査頭数は968頭（重複含む）、検査分房数は1740分房（重複含む）でした。去年の同時期がそれぞれ911頭、1739分房でしたので、検査数は例年通りです。

略語・薬品名対応表

| 略語 | 注射薬 | 軟膏 |
|-----|---------|---------------|
| AM | アンピシリン | — |
| Cz | セファゾリン注 | セファメジン・セファゾリン |
| K | カナマイシン | タイニーPK |
| P | ペニシリン | ニューサルマイ |
| PLM | — | ピルスー |
| T | OTC注 | OTC軟膏 |

原因菌種割合

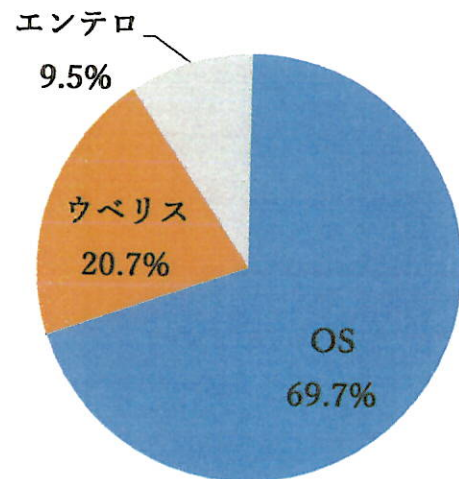
菌が検出された検体の中での雑菌を除く原因菌種割合を以下に示します。最多はレンサ球菌（※1）で、2番目に多かったのはCNSでした。次いでSA、G(-)菌（※2）と続きます。レンサ球菌、CNS、SA、G(-)菌で全体の90%を占める結果となりました。



グラフ1 原因菌種割合

G(-)菌の割合は21.6%（2021年）から16.6%（2022年）と減少しています。レンサ球菌の割合は32.1%（2021年）から35.8%（2022年）と増加しています。SA、CNSの発生割合は同程度です。

- ※1 レンサ球菌にはOS、ウベリス、エンテロコッカスを含む
- ※2 G(-)菌には大腸菌、その他の大腸菌群、クレブシエラ、緑膿菌を含む
- ※ アルカノバクテリウムをアクチ、コリネバクテリウムをコリネ、酵母様真菌をカビと表記

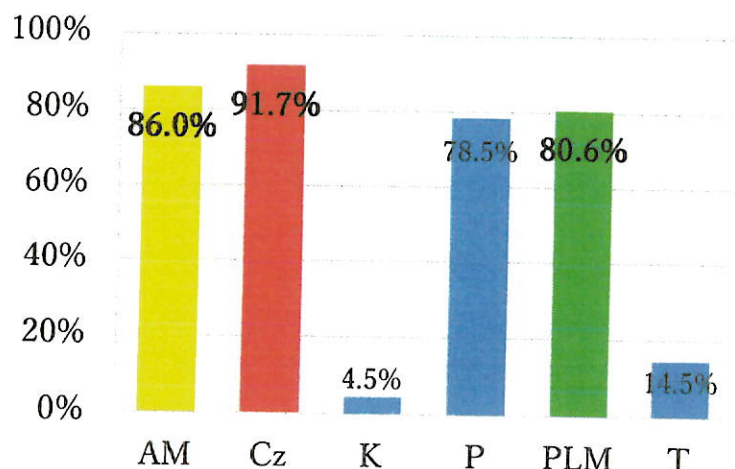


グラフ2 レンサ球菌割合

※エンテロコッカスはエンテロと表記

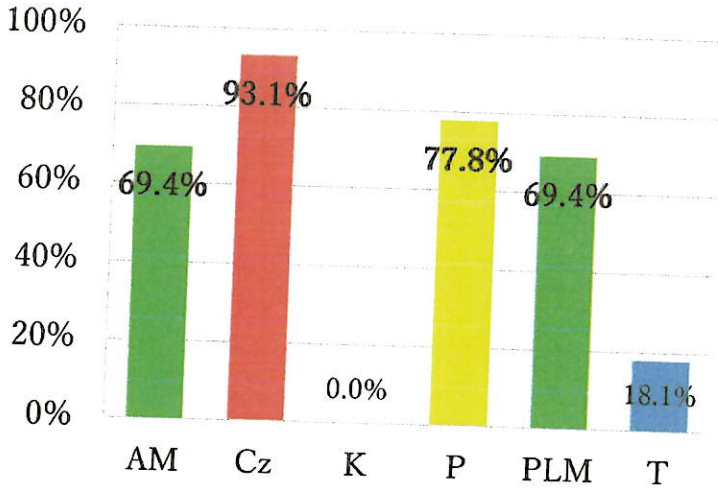
グラフ1にてレンサ球菌としたものの内訳です。レンサ球菌の発生分房数は347でした。OSが242分房で、割合は69.7%となり最多でした。ウベリスは72分房で、割合は20.7%、エンテロコッカスは33分房で、割合は9.5%でした

感受性割合



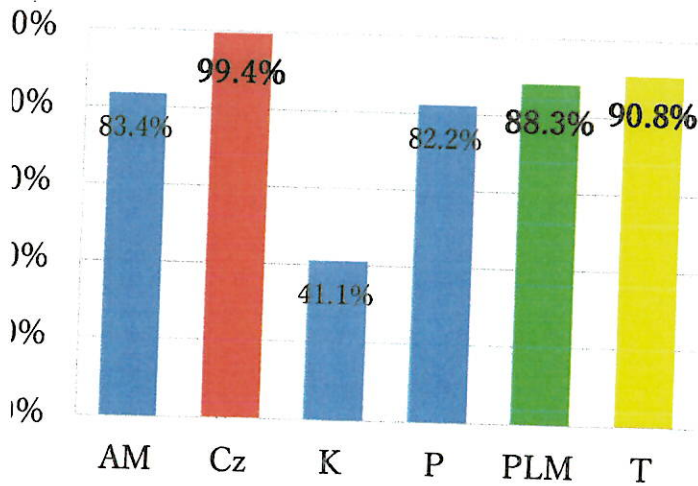
グラフ3 OS感受性割合

感受性割合の上位3つの薬品はCz（セファゾリン・セファメジン）、AM（アンピシリン）、PLM（ピルスー）で、感受性割合はCz90%、AM、PLMも80%越えです。P（ペニシリン・ニューサルマイ）も80%近い値を示しています。



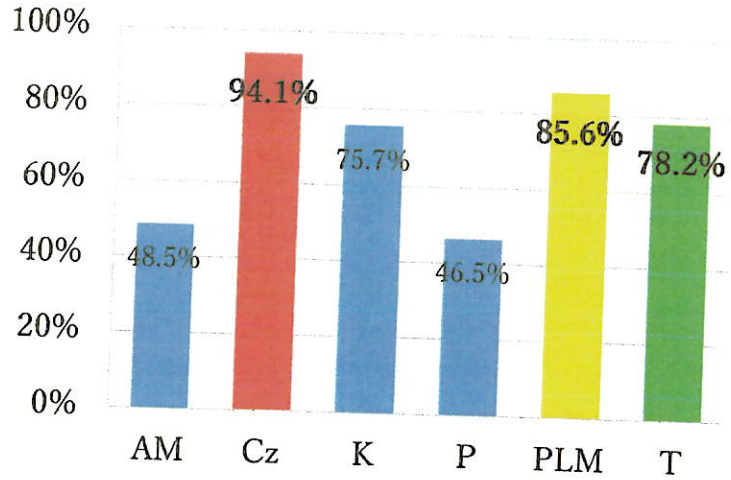
グラフ4 ウベリス感受性割合

感受性割合の上位4つの薬品はOSと同じですが、Cz（セファゾリン・セファメジン）、P（ペニシリン・ニューサルマイ）以外の感受性割合はOSの感受性割合と比べて10%以上低い結果となりました。



グラフ5 SA感受性割合

SAの感受性割合もやはりCz（セファゾリン・セファメジン）が最も高く100%近い値となりました。2番目に高い感受性割合はT（OTC注・OTC軟膏）で90.8%となりました。K（カナマイシン・タイニーPK）以外も80%以上の結果となりました。



グラフ6 CNS感受性割合

CNSの感受性割合上位3つもSA同様になりました。SAと比較してAM（アンピシリン）、P（ペニシリン・ニューサルマイ）の感受性割合が低く、K（カナマイシン・タイニーPK）が高い値となりました。

最後に

やはりグラム陽性菌にはCz（セファゾリン・セファメジン）の感受性割合が高く、今回紹介した菌種全てで90%以上を示しました。しかし、容易に治癒するCNSですら感受性のない薬剤では治らない可能性が高いです。治りが悪いと感じた場合には、兎にも角にも検査を実施しましょう。

富田大祐



Total Herd Management Service